

水洗トイレ村図書館建設プロジェクト Vol. 9
2021年9月20日



～プロジェクトに妥協はしない～

雨で村行きを中止したり中間休みで授業が無かったりと、2週間ぶりに学校に行った日も朝早く家を出る時は雨が降っていなかったもののバスステーションでアフラオ行きの特ロトロを待っている頃から雨が降り出し、村へ向かう道中もそして村も雨が激しく降りたり雨脚が弱まったと思えばまたはげしく降るというほぼ一日雨降りの日でした。雨季から乾季に変わる時季は、これまで降らなかった雨がサービスするかのよう降るのです。2週間ぶりに行った学校、実のところ外壁塗装の様子は校長からピントの合っていない写真が送られてきていたので知っていました。コントラクターのフランシスさんが提案した配色です。レモングリーン（フランシスさんがこの色の名前を呼びます。）はもともと私がオーダーした色。白と淡い黄色を入れましょうと配色の提案をしたのはフランシスさんです。この配色は、セキュリティハウスが学校のカラーの黄色×青なので、それに調和させるためにも玄関ポーチの柱の色を黄色にして軒を白にしましょうと、校長がトビィ氏に色の確認をするといった時に私を尊重して提案した配色です。この時に「黄色は黄色でも濃い黄色（学校カラーの黄色）ではなく淡い黄色でやってほしい。なぜならオーダーしている机、イス、ベンチの色は淡い黄色だから。」と言うと「調和が出来ている色づかいにするから問題はない。」とフランシスさんは返事をしました。校長から送られてきたピンボケしている写真で色味を知るより自分の目で確認をしたい、そんな思いで雨脚の弱くなった学校に着くと希望通りの色、そして丁寧なペイントにとてもうれしくなりました。現在、もうこの図書館の鍵は学校に渡ったのでカーペンターが来ない時でも喚起のために開けられています。図書館の中に入り目に入ってきたトイレのドアの色に驚かされました。近づいて見るとプロがやったとは思えない塗り方。校長にトイレのドアの色は誰が決めて誰が塗ったのか？聞きました。経緯はわからないけれど、校長が村人に塗らせたものでした。「またか・・・。」この10年、必要なものにお金を渡すものその必要なものに使われない悔しさ、机を直すのに昔は木材や釘を買うためのお金を渡すものなかなか大工が来ないまま月日は流れ、ようやく来たかと思えばボールとハンマーのみを持って来て壊れている机から移植して直す作業、またフェリシモさん協賛の書架も村の大工に収入が入るようにと図面とお金を学校に渡すもの、完成した書架はどこをどうしたらこの書架が出来るのだろうという物が納品され、何度も何度も直させるもそのたびに粗末なものになり、結局いつも頼りにしている今のコン

トラクターをお願いして、図面と説明通りの書架が納品されたという苦い経験があります。お金を渡してその目的に使われないことがたくさんあり、悔しさはいつしか「もう信用しない、お金は絶対に渡さない。」という考えに変わってきました。そして今回の「またか・・・。」は「ここまで完成しているんだからいいじゃない？トイレのドアの色なんて。」そう思われるかもしれないけれど、明らかにプロの仕事と言えないものには「まあいいでしょう。」とは言えません。プロにプロの仕事をやってもらうためにお願いしたプロジェクトであって余っているペンキを持って来て雑に塗られて「OK」とは言えません。連絡を取り合うフランスさんの弟のチャールズさんに連絡をしました。チャールズさんからの返答は兄（フランスさん）に伝えて対処するとのことでした。妥協はしたくないという私の考えはガーナでやっていくには小難しさがあることは十分にわかっています。しかし大きな金額が動いているプロジェクトだからこそこの考えは変えずに最後までいく覚悟です。最後に、特別注文の図書館備品（ベンチ、イス、机）の費用が足りずにいたところ、このほど矢東タイヤさまが協力してくださることになり費用の悩みは解消されました。矢東タイヤさまのお気持ちに感謝です。図書館備品には、ギブアウェイさんと矢東タイヤさんのロゴプレート（2センチ×10センチ）をそれぞれつける予定です。

